

# 国立歴史民俗博物館

## 概要



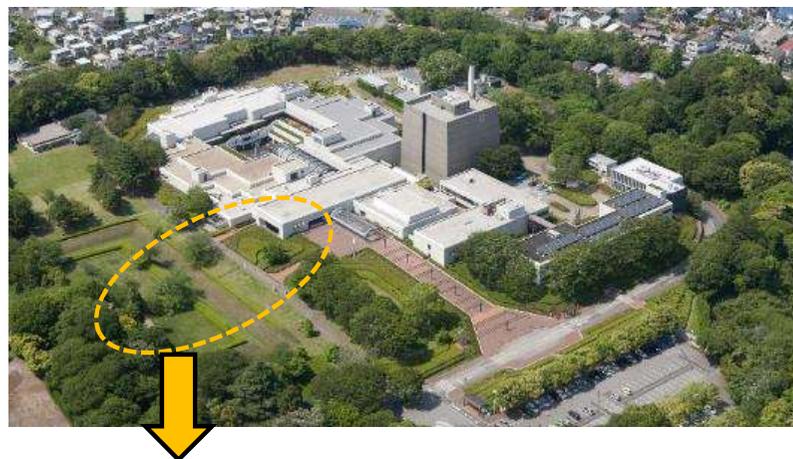
大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
**国立歴史民俗博物館**  
National Museum of Japanese History

# 歴博について

千葉県佐倉市に所在。佐倉城址の一角、佐倉城址公園と接した場所



東京駅から55分  
上野駅から65分



緑に囲まれた環境!

敷地：129,519m<sup>2</sup>  
建物：38,060m<sup>2</sup>

東京ドーム2.7個分



エントランスホールからの風景（屏風桜）

# 歴博について

歴博は、①博物館 ②研究機関 ③教育機関の3つの機能を持つ

- 先史・古代から現代までを総合展示する  
唯一の国立の歴史民俗系博物館
- 国内外の大学等の研究者と共同で、  
歴史学・考古学・民俗学を始めとする  
隣接諸科学との学際的、国際的な研究を  
進める大学共同利用機関
- 総合研究大学院大学先端学術院  
先端学術専攻日本歴史研究コース

博物館

研究機関

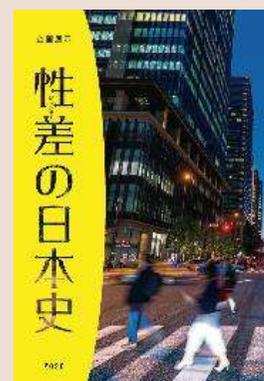
教育機関



研究者による調査風景



共同利用に供する分析装置



図録



展示風景

# 歴博の組織

館長

副館長（研究総主幹併任） 研究・人事・評価等

副館長 財務・国際・大学/産学官連携等

研究推進センター長、博物館資源センター長、広報連携センター長

総合研究大学院大学日本歴史研究コース長

管理部長



## 【教職員数】

館長・教員等	42名
事務・技術職員	45名
非常勤職員	98名
計	185名

## 外部委託

フローアー・総合案内	
機械・電気室	
警備センター	
清掃等スタッフ	約100名

# 歴博の組織

## ＜総務課＞○総務企画係 ○人事係 ○情報システム係

- ・館全体の運営調整，会議運営
- ・人事に関する業務，情報システムの管理運用
- ・産学官連携に関する企画（企業・自治体等との連絡調整）

## ＜財務課＞○財務企画係 ○契約係 ○施設係

- ・館の予算管理，概算要求
- ・施設・設備の管理運営，
- ・契約に関する業務

## ＜研究協力課＞○研究教育係 ○企画・渉外係 ○図書係

- ・共同研究，国際交流
- ・研究用図書・文献資料（約36万冊の蔵書）に関する業務
- ・大学院教育（総研大）に関する業務

## クラウドファンディング

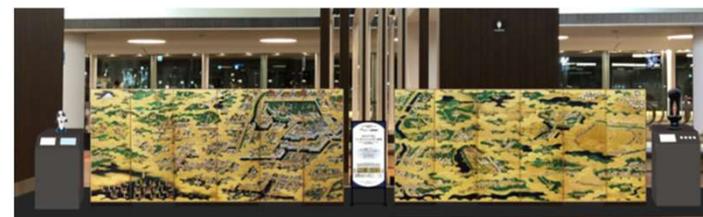


半世紀にわたる、歴博の挑戦！1300年前の歴史を紐解く。  
正倉院に残された古代の文書を後世へ

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構  
国立歴史民俗博物館  
National Museum of Japanese History

2018年3月30日(金)23:00まで、350万円を目標に、  
インターネットサイト [Readyfor](#) を使い、広く大勢の皆様から  
応援を呼びかける「支援募集プロジェクト」を実施中です。

## 光る江戸図（成田空港）



国立歴史民俗博物館 オンライン国際シンポジウム

## ハインリッヒ・フォン・シーボルトの コレクション—さらなる洞察

主催：人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館／ウィーン世界博物館  
2022年3月14日(月) 17:30-21:00(日本時間) / 09:30-13:00(オーストリア時間)



# 歴博の組織

## ＜博物館事業課＞○展示係 ○資料係

- 博物館の展示品（約8千点）の展示事業
- 所蔵資料（約28万点）の収集・整理・保存
- 観覧者に係る業務

## ＜広報課＞○広報・普及係

- 広報に関する業務
- 講演会や展示に関連した企画，イベントの実施
- マスメディア対応，ボランティア対応を担当



## 【参考】総合誌「REKIHAKU」002



博物館マンガ 第2回

ようこそ！サクラ歴史民俗博物館  
本物じゃないの！？  
鹿取ゆう一 監



# 歴博のめざすもの



## ○「博物館型研究統合」のコンセプト

- \* 資源・研究・展示を相互に「つなげる」
- \* 公開・共有によってその環を「ひろげる」
- \* 活動の内容や成果をわかりやすく社会につたえる」
- \* 過去・現在・未来を貫く、認め合える視点を「みつける」

歴史資料・情報の収集・整理、保存、調査研究、  
そして提供という一連の機能であることは、最大の特徴

- 国内外の研究者を組織したプロジェクトで共同研究を展開するのが、歴博の研究面における一つの特長。  
その成果は論文だけでなく、展示という形で表現される。

# 歴博の特長 ①収蔵資料

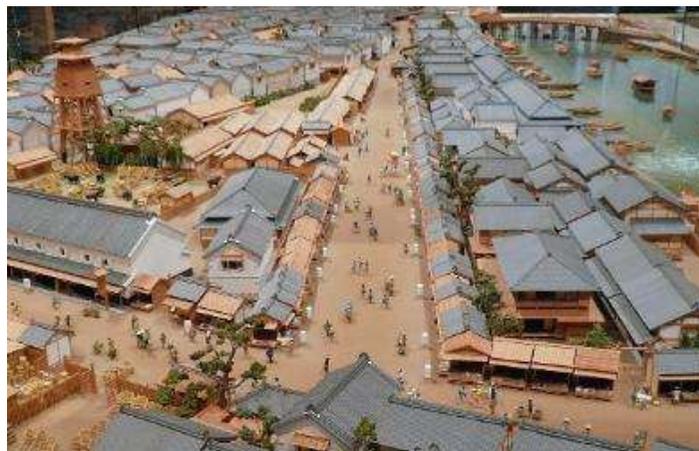
○収蔵資料の中には、実物資料だけでなく、レプリカ（※）や模写、研究成果に基づく復元模型など、多様な種類が含まれる。



青森県亀ヶ岡遺跡出土土器（実物）



紙本著色醍醐花見図屏風  
（重要文化財）



江戸橋広小路界隈（復元模型）

## ※ レプリカ

- ① 長期的展示が可能
- ② 原品の占有化を抑止
- ③ 体系的展示が可能
- ④ 復元的な製作が可能

# 歴博の特長 ②展示

企画展示（年2回）・特集展示・総合展示（常設）



プロローグ全体（入口から）

歴博は、  
観客が「自分の力で」「歴史を考えることのできる博物館」であること。

展示は、情報を発信するだけでない。  
展示を作る博物館（研究者）と展示を観る来館者が  
対話する場でもある。

## ○展示の構成

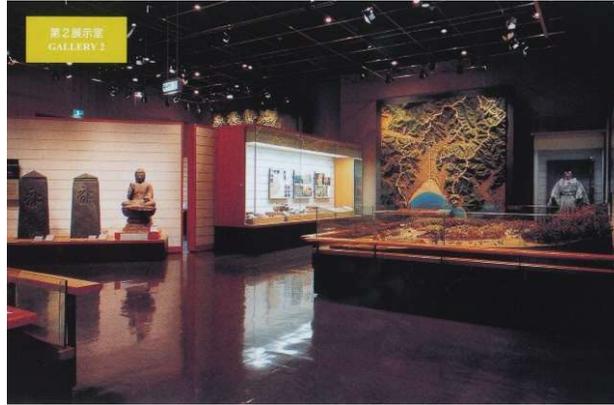
- 第1展示室（先史・古代）
- 第2展示室（中世）
- 第3展示室（近世）
- 第4展示室（民俗）
- 第5展示室（近代）
- 第6展示室（現代）
- くらしの植物苑

## ○展示における基本的考え方

- ・民衆の生活史を重視する
- ・概説的展示、教科書的展示ではない  
⇒ 課題的歴史展示
- ・地域でつくられ、地域で使われ、  
地域で残されてきたものを、  
地域から引き離さない 等



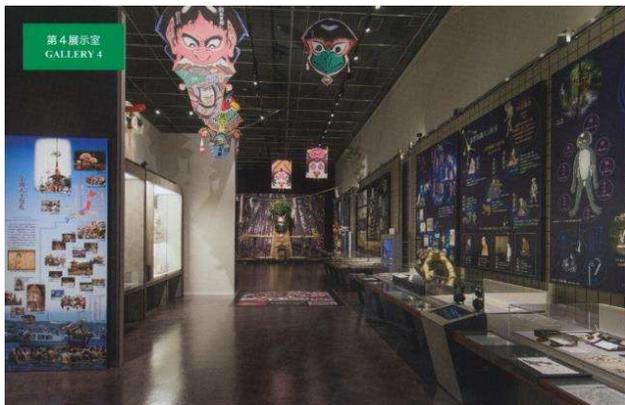
第1展示室（先史・古代）



第2展示室（中世）



第3展示室（近世）



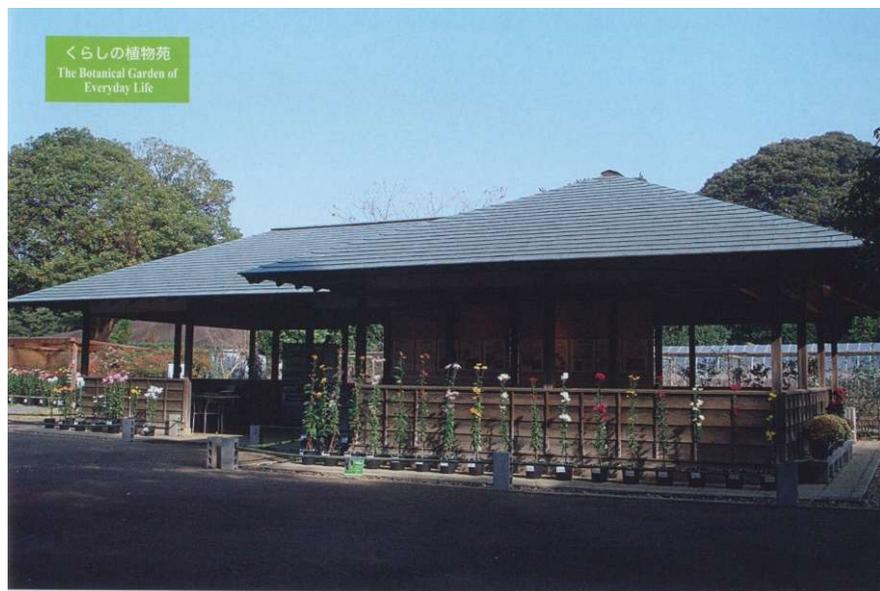
第4展示室（民俗）



第5展示室（近代）



第6展示室（現代）



## ○くらしの植物苑

- 生活文化を支えてきた植物を系統的に植栽
- 四季を彩る伝統花卉の展示 等
- 年4回展示



春：桜草



夏：朝顔



秋：古典菊



冬：サザンカ

# 歴博の特長

## ③多様な展示技術の積極的な導入



「移動型展示ユニット」を活用した展示風景



ジャスチャーセンサーを用いた情報端末  
による非接触型めくり式「さわらずめくり」



博物館の魅力を発信する「オンライン体験ツアー」

# 歴博のパフォーマンス

【入館者数】	164,337人（2023年度総数）
	（内訳）本館 144,825人
	くらしの植物苑 19,512人
	※共催展等他会場 233,279人
【資料収蔵点数】	277,605点（国宝5点、重文87点、重美27点）
【蔵書冊数】	379,185冊
【予算規模】	館内予算：1,904,203千円（2024年度）
	外部資金： 91,830千円